（11）教科内容先端研究センター

①　設置の趣旨（目的）及び組織

ア　組織設置の趣旨（目的）

教科内容先端研究センターは、先端的な専門諸科学の知見に立脚し、先端技術を活用しつつ、次世代のための教科内容を研究・開発することを目的として、令和元年 10 月１日に設置された。

イ　組織の構成及び構成員等

組織は、センター長１人及び教授 10 人、准教授２人、学外研究員２人で構成され、事務は研究連携課が担当している。

②　運営・活動の状況

連続セミナーを全３回実施した。セミナーは、主題を「これからの教科内容」として、各回のテーマを第１回「日本近現代史の最前線」（講師：広島大学名誉教授：河西英通氏）（令和５年７月５日、人文棟５階共用会議室）、第２回「地域の文化財の保護・活用の諸課題：上越教育大学所蔵の八角輪蔵を中心に」（上越教育大学名誉教授・元上越市文化財調査審議会委員長・川村知行氏）（令和５年７月 27 日、人文棟 105 教室）、第３回「近現代教育史の最前線」（上越教育大学・学校教員養成・研修高度化センター助教・長谷川鷹士氏）（令和５年 11 月 22 日、人文棟５階共用会議室）と題して開催した。各回とも、本学学生・教員を対象に開催され、講師による講演会の後、討議を行い、今後の学校教育の教科内容の課題について共通理解を得た。

連続フォーラムを全３回実施した。フォーラムは、主題を「地域課題からみた学校教育の将来像」として、各回のテーマを第１回「地域経済のリデザイン：持続可能な地域づくりに向けて」（講師：大阪公立大学准教授・松永桂子氏、聞き手：上越市創造行政研究所所長・藤山浩氏）（令和６年１月 31 日、人文棟 113 教室、上越市創造行政研究所との共催）、第２回「「百姓」の眼差しからみた生物多様性の意義と課題:食べ物＝いのちをいただく意味を考える」（講師：百姓・農学博士・宇根豊氏）（令和６年２月 21 日、オンライン）、第３回「エコリテラシーを高めるエディブル教育の可能性：人と地球全体の健康を実現するプラネタリーヘルスの社会実装に向けて」（講師：内科医・地域創生医・東京大学研究員・桐村里紗氏）（令和６年３月５日、オンライン）と題して開催した。フォーラムの録画を希望者に動画配信サイトにおいて公開した。各回とも、学生、現職教員及び一般市民を対象に開催され、講師による講演会の後、トークセッションで質疑応答を行い、今後の学校教育の教科内容のあり方について共通理解を得た。連続フォーラムの開催にあたり当センターの教員が、内田エネルギー科学振興財団が公募する助成事業に応募し、３件採択された（前年度比同）。対面による講演会の開催方法についても大教室で参加定員を限定し感染症予防に配慮し、オンライン企画ではリアルタイム参加と同時に希望者に録画を配信する等の工夫をして教育 DX の可能性を追求した。

今後も外部資金を獲得できるよう助成財団へ応募し、セミナー、フォーラムを開催することで、学校における教育課題に関わる質の高い連携と支援体制の整備及び全国的な先行モデルや先端的コンテンツを発信できるよう取り組む。

③　優れた点及び今後の検討課題等

連続セミナーでは、本学関係者を中心に教員養成・教科内容の焦眉の課題を念頭においた企画内容と

し教科横断的な課題意識の啓発がなされた。連続フォーラムの第１回目では、企画段階から上越市の学外研究員と協働して外部講師による地域巡検を踏まえたフォーラムの内容を構成し、学内外のセンター研究員との緊密な連携がなされた。２、３回目では教育 DX 推進の観点から遠隔地（福岡、鳥取）の外部講師によりオンラインで実施し、リアルタイムに受講できない参加希望者のために、YouTube によるオンデマンド配信（限定公開）を行った。いずれの企画もその概要を Facebook で発信した。今後は、引き続き教育関係機関への支援機能を果たしていくとともに、学校における教育課題に関わる質の高い連携と支援体制の整備及び全国的な先行モデルや先端的コンテンツを発信することのできる体制の整備、学外研究員との連携のさらなる発展を模索する予定である。